

昔、貧しい男が観音さまに「良いことがありますよ
うに」とお願いしました。

観音さまにお願いしたあとに、道で転んでしまいま
したが、その時に一本のわらを拾いました。

それが次々と良いものに変わっていき、最後には、
一本のわらが立派なお屋敷になりました。人々はそ
の男をわらしべ長者と呼ぶようになりました。

今から話すことは、男がわらしべ長者になったあと
のお話です。わらしべ長者はわら一本も無駄にせず、
ものを大切にしてお過ごししていました。

①わらしべ長者そのあと表紙タイトルの裏

物^{もの}を大切^{たいせつ}にするわらししべ長者^{ちやうじや}の暮^くらしぶりは、お城^{じやうじ}
でも有名^{ゆうめい}でした。

②物々交換が描かれた絵の裏

ある日、お殿様の家来がやってきました。

「雨が降らなくて、お城の米や野菜が育ちません」。

「食べるものが足りません。助けて下さい」。

③お殿様と家来が話している絵の裏

わらしべ長者はお城に行つて、お殿様に言いました。
「隣のお殿様は米や野菜を捨てていると聞きました。
た」。

「二度、隣のお殿様の所に行きませんか」。

④わらしべ長者と家来が話している絵の裏

隣のお殿様のところに行くと、隣のお殿様は「このお城でも米や野菜はなくては困る」「だが、古い米や傷のついた野菜なら捨てている。いくらでも持って行け」と言いました。

わらしべ長者は、喜んで古くなった米や傷のついた野菜を持って帰りました。

⑤わらしべ長者が2人のお殿様を思い浮かべる絵の裏

お殿様は「隣のお殿様が捨てているような米や野菜は食べられるのか？」と困った顔で言いました。

⑥隣のお殿様が食糧を見せている絵の裏

「心配ありません、お殿様」。

わらしべ長者は、ふっくらとした米を炊き、傷のつ

いた野菜を次々と美味しい料理に変身させました。

わらしべ長者は毎日、料理をつくりました。

⑦わらしべ長者と困った顔のお殿様の絵の裏

すると、まちのみんなは食^たべるものに困^こらないよ
うになりました。

⑧わらしべ長者が作った美味しい料理の絵の裏

お城おしろを救すくったわらしべ長者ちやうぢやはお殿様おんさまからご褒美ほうびをた
くさんもらいました。

ものを大切たいせつにしたわらしべ長者ちやうぢやはずっと幸せしあわせに暮くら
したそうです。

おしまい。

今日はみんなの大好きな紙芝居を読みます。

「わらしべ長者そのあと」ところお話です。

みんな、わらしべ長者のお話は知っているかな？

まずは、わらしべ長者のお話を振り返りましょう。

⑩ ご褒美をもらったわらしべ長者の絵の裏